

## 平成27年度京都市歴史資料館評議委員会議 議事録

- 1 日 時 平成28年3月4日(金)午後3時～4時15分
- 2 会 場 同志社 新島会館 2階 貴賓室
- 3 出席者 評議委員：鈴木久男，龍村光峯，田端泰子，野口実，平井和，藤瀬祥子  
歴史資料館：井上館長，宇野担当係長，碓担当係長，他
- 4 欠席者 評議委員：上原恵美
- 5 傍聴者 なし
- 6 議事運営

### (1) 開会

京都市市民参加推進条例第7条により本会議及び議事録等について公開することを説明。

### (2) 開会あいさつ

### (3) 出席委員・当館説明者紹介

### (4) 平成27年度事業報告説明（資料2参照）

平成27年4月1日付で，歴史資料館が行財政局から文化市民局に移管し，文化財保護課の所管となった。同課は，文化財の保護，市指定の文化財の指定や維持管理等を行っている部署であり，従来から当館との業務上の関係も深く，また，考古資料館も所管していることから，今後，連携による事業を進めやすくなることを報告。

展示事業では，「重要文化財 賀茂別雷神社の古文書」，『京都市政史』全巻刊行記念 古都・京都の復興，「叢書京都の史料刊行記念 内裏図の世界—京都御所と公家町—」，「古地図のいろいろ—手書き地図の世界—」，「京・地域のくらし1 下鴨—賀茂御祖神社の神域—」（京都市考古資料館共催），京都府京都文化博物館特別展（歴史資料館共催）として「実相院門跡展—幽境の名刹」開催について報告。

さらに，展示に合わせた歴史講座，古文書講座，夏休み親子歴史講座のほか，アスニー京都学講座との協力事業について報告。

また，歴史講座「古都・京都の復興」については上京区役所との共同により実施したことを報告。

施設利用状況について，展示来館者数は昨年同時期（2月末）に比べて5%の増となっており，23年度と同程度の16,000人程度の来館者数が予想されること。今年度8月から開始した，土日の歴史相談と閲覧室の開室が京都新聞でも取り上げられ，資料閲覧及び歴史相談件数は昨年に比べて増加していること，ホームページのアクセス数もこの2年間増加しており，引き続き，情報の発信と更新を行う予定であること等を報告。

刊行物については，『叢書京都の史料14 内裏図集成 京都御所と公家町』・『京都市歴史資料館紀要』第26号の刊行について報告。

### (5) 質疑応答

[評議委員] 京都アスニー協力講座の参加人数は。

[資料館] 主催者からこれから確認する。

[評議委員] 博物館実習生は，歴史資料館で古文書の取扱いなどを学びたい学生が来ていると思うが，

どの大学からどういう学生が来ているのか。

[資料館] 大谷大学1・京都女子大学1・京都橘大学1・同志社大学1・立命館大学2の計6名の実習生を受け入れた。主に日本史専攻だが国文学専攻の学生も含まれている。

[評議委員] 紀要の発行部数と販売価格、販売数、残部数は。

[資料館] 25号は500部、26号は400部でそれぞれ500円で販売。販売部数は手元にデータがないので、後でお答えしたい。

[評議委員] 去年の報告も聞いたうえで今年の事業報告を聞くと、小さい組織ながらよく工夫をされている。土日にも歴史相談を行うには、専門的知識のある方にいてもらわないといけないので体制としてなかなか大変だと思うが、職員の残業を強制しないで進めているのか。

[資料館] 土日開館については以前から要望があり、課題だった。市政史編さん事業が昨年度で終了し、編さん事業にあたっていた嘱託の人員を確保し、土日開館を実施した。

[評議委員] 私たちも中世以外のところは聞かれてもわからないので、編さんに関わった方にいてもらえるとありがたい。

[評議委員] 市政史は近代以降ばかりかと思うが、市政史編さん事業にあたっていた人員で、前近代の質問に答えられるのか。

[資料館] 嘱託職員には専門が古代・中世の者もあり、幅広く、かなり専門的な内容で回答している。

[評議委員] 参観者数の開館日数の表について、土日の平均は載っているが、平日の平均人数がわかりにくい。

[資料館] 全体の参観者数と土日の数値を比較するかたちをとっている。次回からは、平日の平均人数の欄も設けたい。

[評議委員] よくこれだけの展示をやっているなど感心している。利用者の年齢層はどのあたりか。

[資料館] 平均的には年配の方が多いが、修学旅行で訪れる小中学生や高校生なども多い。また大学の授業や研究で訪れる学生等を含めて、幅広い層が来館されている。

[評議委員] 修学旅行生が多いのは良いこと。

[評議委員] 年間の利用者数は16,000人程度になるということだが、考古資料館と比較してどうか。

[資料館] 考古資料館の年間利用者数は約20,000人程度あり、当館より若干多い。

#### (6) 平成28年度事業計画説明（資料3参照）

展示については、「叢書京都の史料刊行記念 内裏図の世界—京都御所と公家町—」、「よみがえる伏見城」（考古資料館と共催）、「東山本町通と柳原庄—今村家の歴史遺産から—」、「絵図のまなざし」、「京・地域のくらし2 大原—生活と信仰—」を開催することを報告。

さらに、新企画として「スポット展示」のコーナーを設け、「京都市参事会文書」、「大坂の陣と真田幸村」、大塚コレクションから「祇園祭とねりもの」といった、新収資料や話題性のあるものを1～2か月程度ごとに展示することを報告。

展示と関連する歴史講座については、上京区役所と連携して行うフィールドワーク「古地図で歩く京都御苑」、大原地域の地元団体と連携して行うシンポジウムやグルメ紀行の企画のほか、鴨川・高瀬川地域活性化事業連続講座を行うことを報告。古文書講座については、習熟度別に2つのコースを設定し、

内容の充実を図ること、夏休み親子歴史講座については体験型の講座を企画すること等を報告。

(7) 質疑応答

[評議委員] 講座「古文書を楽しく読もう！」の定員と参加費用は。

[資料館] 春・秋の2季。定員48名。参加費は4回で2000円。

[評議委員] 鴨川・高瀬川地域活性化事業の連続講座の文化庁助成金とはどのようなものか。

[資料館] 歴史遺産を活かした地域活性化事業として助成金を申請している。外部の大学教員への講演依頼やカラーのポスター・チラシの印刷費に充てられる。

[評議委員] 「今村家文書」は、かなり学術的な内容であり、あまり知られていないと思う。新聞等で取り上げてもらうなど、かなり広報に工夫が必要だ。早い時期から、また噛み砕いた内容で広報してほしい。

[資料館] できるだけわかりやすいかたちで広報していきたい。

展示には、長年の調査・研究の成果をもとに企画しているものと、展示のために資料を集めるものとの2通りがある。今村家文書は前者で、地味な内容だが、長年の研究の成果の表れと捉えていただきたい。

[評議委員] 京都の博物館というと、何かテーマパーク的な観点で来館する方が多く、また京都の市民もそのように博物館を認識している人が多いのではないか。そういう点から言えば、「今村家」の展示は、地域や現代社会の問題、実際の今の京都市民の生活、そういうものと密接な市民に還元できる企画として私は歓迎している。今村家文書の展示というのは確かに地味ではあるが、戦国末から現代に至るまでの変遷がわかる、地に足の着いた展示であり、京都市民に還元できるような企画であるということをアピールできればよいと思う。

[資料館] 今村家文書は、これまで非公開とされてきた資料であるが、最近、思文閣出版から史料集が刊行されたことをきっかけに、一般に公開されており、資料は歴史資料館に寄託されている。

また、今村家住宅は、東山区の本町通に所在する京都市内でも最古級の町家といわれている。この辺りは、江戸時代には洛中（下古京の大仏組）に含まれたが、鴨川の東側にあるためか、京都の歴史に詳しい人でもあまり洛中とは意識していない地域である。中世には「今村城」があり、今村慶満が居城したと伝わる。

[評議委員] 今村家文書は、京都市の文化財指定を受けるような将来性のあるものなのか。

[資料館] 建築史専門の研究者によれば、市内でも最古級の町家であり、京都市文化財とするべきものという御意見を伺っている。文化財指定のための調査にはまだ取り掛かれていないが、歴史資料とあわせて、これから本格的に調査に取り組みたいと考えている。

[評議委員] その取組を通して、市や国の文化財指定につながっていくような、また、市民の皆さんに歴史的な意味を知ってもらえるような、深みのある取組を期待する。

それから、資料のオー1～3については、「大原」という歴史のある場所なので、事前の広報をしっかりとっていただきたい。この事業は、里山ツアー等とタイアップして行われるものなのか。そこでの歴史資料館の立ち位置は。

[資料館] 大原の町おこしに積極的に取り組んでいる地元のNPO法人などが、左京区役所や文化庁の

補助金なども受けて、長年にわたって活動されている。ここに歴史資料館が関わって展示などを企画したもの。オー１：展示は歴史資料館の主催。オー２・３は地元団体が中心となる企画で、歴史資料館は共催者の一つ。

[評議委員] 夏休み親子歴史講座では、大文字・五山送り火の講座は完全にやめてしまうのか。

[資料館] 内容を変えて行く。これまでの講座が評判が悪いからではなく、同じテーマが続いているので、思い切って少し違うテーマに関わってみてはという試み。

[評議委員] 毎年8月16日の五山送り火の前の日に行われる講座は定着していると思う。新しい試みもあってよいが、親子で歴史に親しめる企画として、大文字の講座も大事にしていってほしい。

[評議委員] 評判が良いからといって、ずっと同じことを続けるのはよくない。毎年夏になれば、あの館は、この講座をやるだろうということではなくて、新しい試みにもチャレンジをしてほしい。

[評議委員] 取組みをぜひ強めてもらって、子どもたちの歴史離れをとどめるように努めてほしい。

[資料館] 市民の方からどのような要望があるのか、リサーチにも努めたい。

[評議委員] それはそうだが、博物館や文化行政には「啓蒙」という役割がある。アンケートも、やりすぎると、公民館がカラオケボックスになってしまったというような例もある。京都には、五山送り火以外にも、葵祭や祇園祭、「鎌倉時代の六波羅」のように、やってもらいたいテーマや素材がたくさんある。日本の通史のなかで重要なことがたくさんあるが、市民が知らなかったり、あまり認識していないのは、残念なことで、大変もったいないと思う。

京都の「市史」は今後どうするのか、もう一回作るのか。京都という空間は、歴史に関して職員の数や予算規模は政令指定都市のなかでも百倍くらい出してもいい、そういう空間だ。もっと、京都の博物館としての主体性や啓蒙の役割を出してもらっていいと思う。

#### (8) 歴史資料館運営予算について（資料4参照）

歳出・歳入予算の概要を説明。

歳出予算については、28年度は「岩倉具視関係資料の修復」と「鴨川・高瀬川地域の歴史遺産継承・活用事業」を特別経費として計上していること、叢書（隔年刊行）の印刷費を管理運営の項目に一体化させたことに伴い空き枠になっていること等を説明。

#### (9) 質疑応答

[評議委員] 京都御苑と近いという地の利を活かして、宮内庁の京都事務所とも連携してはどうか。

[資料館] 京都御苑を会場にした講座なども、今後検討していきたい。

[評議委員] 文化庁の京都移転がほぼ決まったことを受けて、市の歴史博物館ということも具体的に考えていくべき。総合的な調査・研究・展示・普及啓発ができる施設を実現してほしい。

[資料館] 以前に構想が出たが、予算等の関係で無くなってしまった経過がある。

[評議委員] 新しい『京都の歴史』編さんの計画はないのか。

[資料館] 『京都市政史』の編さんがようやく終わったところであり、今のところ計画はない。市史で書かれなかったごく最近の部分を取り上げるのはあるのかも知れないが…。

[評議委員] 時代によって問題意識が違うので、新しい時代だけではなくて、新しい問題意識で古い時代

から徹底的にやる。市史というのは約30年スパンで考える必要があるが、もう30年が経過してしまっている。その時になったら作り始めたらいいのではなく、将来を見通し、長期計画を立てないといけない。京都の重要性をもっと認識してほしい。

[評議委員] 今の点はそのとおり。もう一つは、京都の歴史のそれぞれの時代の移り変わりがわかるような常設展が必要。一年で実現するのは難しいと思うが、これからもこのことは言い続けてほしい。

[資料館] どちらもあわせてしっかりと要望していきたい。

[評議委員] 京都府立総合資料館の収蔵庫が、府立大学の敷地に新しく作られたと聞いている。市の資料をそこで保管してもらうなどの連携はできないか。

[資料館] 府との連携は模索しており、一緒に事業を進めるということには取り組んできている。収蔵庫スペースの確保については府でも問題になっている。市の所有物を他で保管することは難しい問題があるが、貴重なご意見としてうけたまわりたい。

[評議委員] 京都という都市は「日本の京都」であり、京都を語ることで日本を語ることができるという歴史がある。文化庁の京都移転という機会を捉え、ぜひ積極的に取り組んでほしい。

[資料館] 文化庁の移転も、市と府が連携して働きかけた結果であり、この機会を活かしたいと考えている。

[評議委員] 京都文化博物館で開かれている「洛北岩倉と実相院門跡」（歴史資料館と共催）の展示を観て、関連講座も聞いてきた。門跡寺院としての歴史や絵画をはじめとする所蔵品も興味深く、実相院の克明な日記が残されていることなどは、京都市民の私もこれまで知らなかった。とても良い展示をされていると思う。

[資料館] ありがとうございます。本日、委員の皆様方から頂いた貴重なご意見をかみしめ、今後の歴史資料館に活かしていきたい。

#### (10) 閉会あいさつ

文化庁の京都移転については、市内に来るのか市外になるのかなど、まだ未確定なところがあるが、そうした動向も見定めながら、京都市歴史資料館の将来を一丸となって築いていきたいと考えている。今後ますますの皆様からのお力添えとご指導・ご鞭撻をお願い申し上げたい。